

刷り込みから始まった考古学？

中 島 佐久男

正林護先生が喜寿を迎えられましたことはまことに慶賀にたえません。心よりお祝い申し上げます。

歴史に疎かった私ですが、大阪着陸前に百舌鳥古墳群を空から見たのがきっかけで考古学に興味を持ち、ロマン長崎会館で開催されていた大会を一寸覗いてみようと思い出掛けたのですが、事務局稲富氏の甘誘（失礼）いや勧誘にのり県考古学会に入会してしまいました。

歴史に弱いうえ六十歳からの遅蒔き考古学入門そのうえ無粋なノンアルコール人間で申し訳ありません、正林先生どうか不肖会員ですが宜しくお願い申し上げます。

それまでの私は、50歳頃に新聞の書評で知った天文入門書カール・セーガン著「COSMOS」の物語風な理解し易い解説に初心者の私も興味深く読め、上巻は一般的な天文学の内容でしたが下巻には初めて知った宇宙論の話があり、自分の頭脳では理解できない宇宙論の不思議さにすっかり魅せられてしまいました。

それからは話題になったホーキング著「ホーキング、宇宙を語る」を手始めに宇宙論が易しく書かれた入門書を理解出来なくて当たり前と気にもせず読んでいました。

趣味や興味ある事柄で読む本は一冊読んで一項目だけでも知らなかった知識を貰えば、それで本代はペイした主義です。

恐らく退職後も、宇宙論の難しい理論は理解できなくて五里霧中状態でも躊躇わず宇宙の不可思議を楽しむだろうと考えていました。

こんな私が古墳を見たたん考古学に傾いてしまうとは我ながら驚き不思議でした、「なんでだろう　なんでだろう」と悩む事もなく、これは飛行中の揺れで脳が突然変異を起こしたのだろうと自分流解釈で納得していました。

ところが数年前、恩師より岡山市に転居した旨の手紙が届き、“岡山”の字から、思い出したことがあり「ああそうだったのか」と私と古墳との関連に気付きました。

それは戦時中のことになりすが、兵庫県西宮市の国民学校（小学校）5年生の時に岡山県和気郡の田舎に疎開していました。

ある日登山があり見晴らしの良い場所で休憩していた時、引率の先生が眼下の平野を指さし「あの小さな山のような森のようなのは古墳というもので……」初めて聞いた古墳という言葉と山から見た古墳の姿、そのことを“岡山”の字から思いだしました、生まれて初めて聞いた古墳と言う言葉と古墳の姿に「古墳？」の思いが脳裏に残っていたのでしょうか、不思議な気がします。

もしあの時、古墳まで見学に行っていたら子供のことで、恐らく「なんだこれが古墳か何もない」で終わってしまい古墳に関しては何も脳裏に残らなかったでしょう、然し行かなかったからこそ「古墳？」が刷り込まれたのではないのでしょうか。

この少年時代に刷り込まれていたであろう「古墳？」を、空から見た百舌鳥古墳群が目覚めさせてくれたのだろうと恩師の手紙“岡山”から気付きました、このことから子供の

頃の刷り込みが及ばず影響を実感しました、そんな理由で前号に長崎県が開催していた子供のための古代生活体験の様な企画を継続することが必要ではないかと書いたのですが。

刷り込みから始まった私の考古学入門、初めて参加したロマン長崎会館での総会資料の中に正林先生の書かれた一縄文時代環対馬海域の漁労具などがあり、またシンポジウムで釣り針などの話を聞き、こんなことも考古学の研究資料になるのかと驚き考古学は何でも有りだな、が第一印象でした。

それならばよし考古学第一歩は自分の職業と少しは関連している古代の漁具や漁業から始めようと考えたのですが、皮肉にも数日後NIFTYで知った関西のグループから古墳見学会の案内があり、参加して古墳巡りをしているうちに矢張り「古墳？」にしよう、あっさり考えが変わってしまいました。

少年時代に刷り込まれていただけで何の知識も無い古墳に魅力を感じ、よし古墳の勉強を始めるぞと意気込みだけは十分だったのですが、一年もすると考古学的な素質に欠け能力も劣る自分に気づき一層の努力が必要なのに早々と諦めてしまい進歩なしです。

その後は心がけが悪く「西海ニュース」では生意気に有言実行を宣言したものの口先だけで何一つ物にできない有様なのに、身の程もわきまえず「西海考古」誌上では広言&高言ばかり述べ申し訳ありませんお許し下さい。

また背伸びして入会した九州前方後円墳研究会の方も春期大会の研究発表は敬遠のパスですまし、秋期の古墳見学会だけは参加して脳力は駄目でも体力はまだ大丈夫のようだと安堵している情けない会員です。

こんな私ですが考古学に入門しての最大の収穫は考古学関連の懇親会です、私は全くアルコールは駄目ですが懇親会の雰囲気が多量に好きで参加しています、皆さんが三々五々に時間も忘れて考古学の話題を熱心に話し合われている姿には感心しております、それと同時にこれは一体何だろうか少し驚いています。

それに何と言っても若い人たちが話し合っている姿を側で観察していると、伊勢志摩の真珠会社勤務時代に国立真珠研究所の人達と議論していた自分自身（装飾過剰）とダブリ青春時代に戻った気分になれ嬉しくなります。

これからも懇親会には若い人達の精気を吸収することを主目的で参加します、そしてプラスαでベテランの方々の蘊蓄ある話題を傾聴いたします、いやはやプラスα分としてベテランの話も傾聴とは申し訳ありません。

次に感謝していますことは発掘調査に発掘作業に従事できたことです、考古学考古学と言っても発掘調査現場を知らないのでは話にならないと考え志望したところ、調査員の方々のご配慮で各所の発掘作業に従事することができ、現場で生の考古学を経験できますことを有難く感謝しております。

このご配慮に応え私自身が研鑽努力すべきなのに、これを怠り努力をしないダメ人間で申し訳ありません。

刷り込みから始まった私の考古学、会員の皆様が取り組んでいる本格考古学は私の能力では無理なので、自分の興味ある部分だけをつまみ食いし能力相応の身の丈考古学で楽しんでいきます、この様な私ですがこれからも宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが正林先生のご健康と今後ますますのご活躍を祈念いたします。